逃避行で初恋を実らせた里見義弘と青岳尼の物語

（いきいき大学、教養文化教室の本保弘文講師の講座をベースに）

2020 年 11 月 6 日

我部山　民樹

１．はじめに

　里見家の最盛期を築き上げた名将義弘と、小弓公方（おゆみのくぼう、千葉市おゆみ野）足利義明（あしかがよしあき）の気品ある娘で、のちに鎌倉五山筆頭・太平寺の住持（一寺の主僧を務めること）になった青岳尼（しょうがくに、結姫）が、幼い頃の恋を、逃避行によって実らせた物語である。

・1539 年、結姫（ゆうひめ）6 歳の時、父親の足利義明が戦死した後、安房の里見家（滝田城）に預けられ、南房総石堂寺（みなみぼうそういしどうじ、千葉県南房総市丸山）で暮らし始めた。二人が初めて出会ったのは 1540 年に義弘（よしひろ）15 歳が「結姫と妹・旭姫を滝田城（南房総市）に客人として招きたい」と伝えに来た時だ。その時からお互いに好意を持ったのだろうか。

・1544 年、南房総石堂寺多宝塔のお披露目式があり、一族郎党が集まり、二人は久し振りに再会する。境内を散策しながら、親しく語り合う 20 歳の義弘と 12 歳の結姫。そこには恋人同士の観が漂っていた。

小弓城跡

南房総石堂寺

・1555 年、里見軍は北条氏傘下の玉縄衆（鎌倉にある玉縄城の家臣団）を打ち破り、鎌倉に乱入した。義弘は単身で太平寺に向かい、恋焦がれる青岳尼を呼び出した。尼ではなく 24 歳の娘に戻った青岳尼は仁王立ちしていた義弘と手と手を取り合っていた。義弘は青岳尼をそのまま佐貫城（さぬきじょう）に連れ帰った。青岳尼は間もなく還俗して正室となり、名を「お弓の方」と改めた。お互いに文で連絡を取りあったったと思われる。

太平寺跡

このことを知り憤慨した北条氏康（うじやす）によって太平寺は廃寺となった。

・1561 年、「お弓の方」が急な病で倒れ、永久（とわ）の別れとなった。（享年 28 歳）二人の幸せな生活もわずか 4 年ほどであった。

２．主な出来事

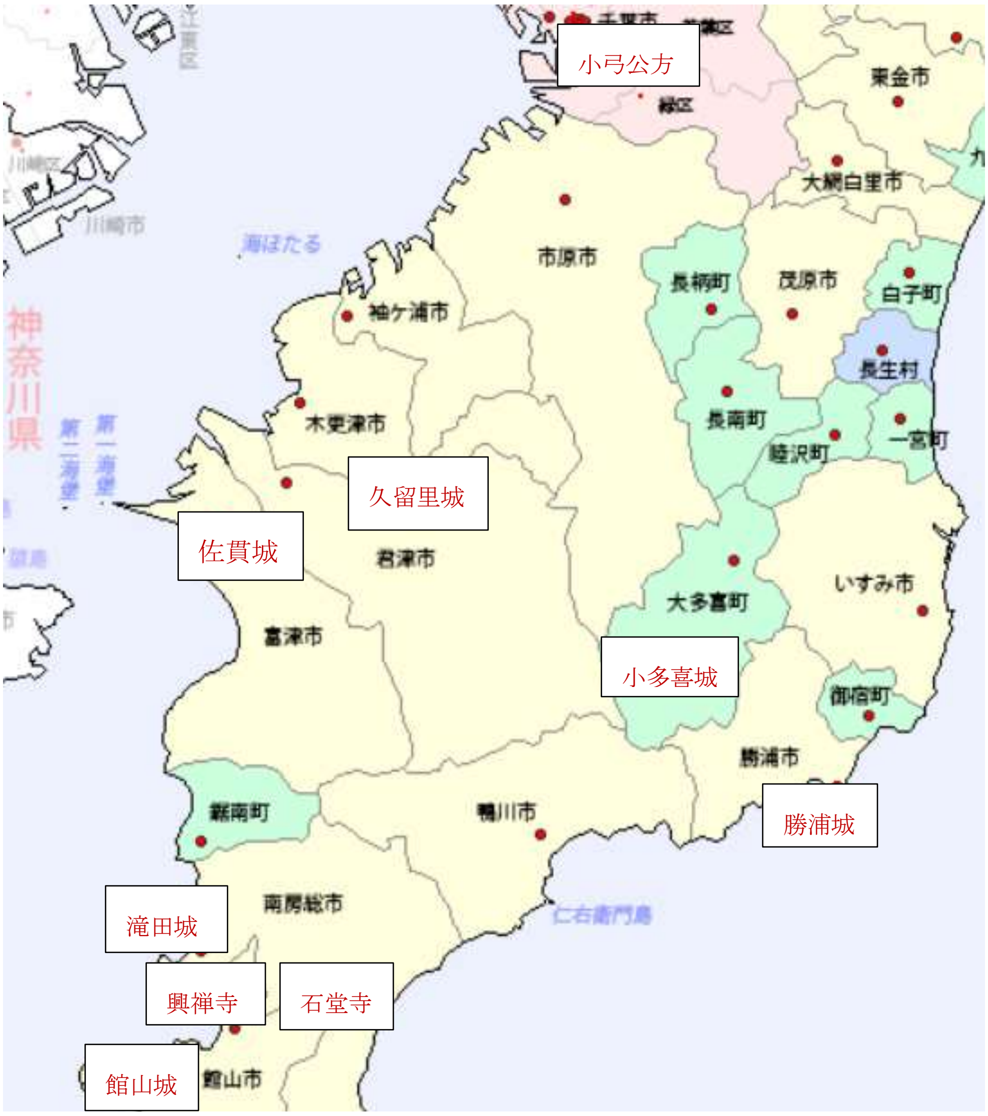
1517 年	古河公方（こがくぼう）第 2 代当主・政氏の子の足利義明が、父と兄・高基が対立すると、千葉氏家臣の原篤胤らを破って小弓城（現千葉市生実（おゆみ）町）を攻め取り、居城とする。自ら小弓公方と称す。
1525 年	義弘が生まれる
1526 年	里見 5 代当主義豊（よしとよ、実堯の甥）・実堯（さねたか、義弘の祖父）が北条を追って鎌倉に攻め込む
1532 年	結姫生まれる（のちの青岳尼）
1534 年	里見義堯（よしたか、実堯の子、義弘の父）が里見義豊（よしとよ）を攻め、自害させ里見家の第 6 代当主となる
1537 年	義弘、佐貫城（千葉県富津市）に居を構える（13 歳）
1538 年	第一次国府台合戦で里見義堯が小弓公方（おゆみのくぼう）足利義明と手を組んで北条氏綱（うじつな）、古河公方足利晴氏（はるうじ）と戦い、足利義明が戦死する。（享年 48 歳）結姫（ゆうひめ、後の青岳尼）等 3 人の遺児が父の死後、安房里見家（滝田城）に預けられ、丸山村（南房総市）の石堂寺で暮らす。
1539 年	15 歳の義弘が 7 歳の結姫等 3 人を訪ねてくる。「結姫と旭姫を滝田城に迎え、義弘の母親・於勝の方の客人として迎えたい。千寿丸はこの寺で修行して、その後出家させたい。」と伝える。結姫と旭姫はすぐに出発。
1539 年	義弘は結姫に出会ってまもなく、父の義堯に「結姫を佐貫城に連れていきたい」（結婚を前提に）と申し出るが反対される。（格上の足利との結婚は婿入りすることを意味するので）
1943 年	里見義頼（よしより）が生まれる。義弘の弟。
1544 年	石堂寺多宝塔の於披露目式が挙行された。里見一族、正木一族、丸一族の他に義明の奥方、千寿丸（13 歳）、結姫（12 歳）、旭姫（9 歳）も参列。義弘と結姫は久し振りに再会する。
1547 年	鎌倉の東慶寺から「結姫を太平寺、旭姫と奥方は当山に入山させる」と連絡を得て、義堯の命令で義弘が 3 人を寺まで引率する。3 か月後、結姫は得度し、名を「青岳尼」に改める。

1551 年	青岳尼、太平寺住持（一寺の主僧を務める）の記録がある。いつ住持したのか不明。太平寺は鎌倉五山の筆頭で、関東一円の尼僧を統括する頂点にある。
1556 年	義弘（32 歳）が北条氏傘下の玉縄衆を打ち破り鎌倉に乱入。単身、太平寺を訪れ、青岳尼（24 歳）に「還俗して自分の妻になるよう」勧める。その日に佐貫城に連れ帰り、名を「お弓の方」と改め、正室とした。このことを知った北条氏康が憤慨し、太平寺を廃寺とした。
1560 年	8 月、関東進出を狙う北条氏康が久留里城を攻めてきたが、義弘は上杉謙信に関東進出を要請した。この出陣要請をきっかけに、謙信は反北条氏の立場の諸将に対して小田原への出陣要請をして自らも越後を発った。この情報で北条軍は久留里城から退却。ほとんどの反北条派が要請に応じ、義弘も参陣した。
1561 年	3 月、謙信は小田原攻撃を諦め、鎌倉に兵を引いた。義弘も佐貫に戻るために大磯に至った。佐貫からの使いのものが「お弓の方がお亡くなりになりました。すぐにお戻り下さい」と言い、泣き崩れた。（享年 28 歳）
1576 年	青岳尼の菩提寺（房総市）・興禅寺の供養塔に,この年が青岳尼の命日と明記されている。この年にはすでに義明は古河公方足利晴氏の娘を室に迎えており、（1564～1574 年義弘と同居）すでに嫡男梅王丸も生まれている。梅王丸は 1570 年生まれの説がある
1578 年	義弘が佐貫城で急死した。（享年 54 歳。）生前、家督（上総）は梅王丸に、義頼には安房一国を与えると約していた。これが内紛の元凶となり、争いとなる。義頼は居城を館山に移す。
1580 年	義頼が勝利し、梅王丸を出家させ、里見氏の領国全てを継承。梅王丸の母と妹を上総琵琶首館（かずさびわくびやかた、市原市田淵の白尾（びゃくび）にあった古城）に幽閉。二人は変死した。

滝田城跡

佐貫城跡

３．位置図



江戸時代の館山城を復元

江戸時代の久留里城を復元

4．系譜

①足利氏

〇古河公方成氏→政氏→高基→　晴氏→義民
　　　　　　　　　　↘　　↘
　　　　　　　　　　　　　・瑞山尼（東慶寺）
〇小弓公方　　　　　・義明→　義純
　　　　　　　　　　　　↘
　　　　　　　　　　　　　・国王丸（頼純）　→・頼氏
　　　　　　　　　　　　　・**青岳尼**（太平寺）↘
　　　　　　　　　　　　　・旭山尼（東慶寺）　・鳩子（秀吉の側室）
　　　　　　　　　　　　　・千寿丸　　　　　　・国朝（喜蓮川）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・塩山尼（東慶寺）

②里見氏

初代義実→2 代成義→3 代義通→5 代義豊
　　　　　　　　↘
　　　　　　　　　4 代実堯→6 代義堯　→**7 代義弘**→梅王丸（出家）
　　　　　　　　　　　　　　　　↘　　↘
　　　　　　　　　　　　　　　・堯元　　・義俊
　　　　　　　　　　　　　　　・堯次　　・頼俊
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・政姫（琵琶首舘に幽閉）

　　　　　　　　　　　　　　　・8 代義頼→9 代義康→10 代忠義
　　　　　　　　　　　　　　　・種姫（夫；正木信茂）
　　　　　　　　　　　　　　　・豊姫（鹿島大神宮　入社）

5．お弓の方（青岳尼）の永久（とわ）の別れ（本保弘文氏による）

・1560 年 8 月、上杉謙信が関東の支配を狙う北条氏に対し、小田原侵攻を目指し、反北条の諸将に出陣要請をした。里見義弘も総大将で参陣した。小田原城を容易に落とせず、1561 年 3 月、謙信は小田原攻撃を諦め、越後に戻っていった。義弘も佐貫に戻るため大磯に至った。ここで、佐貫からの使いの者が義弘の前に駆け寄った。そして「お弓の方様がお亡くなりになりました。すぐにお戻り下さい」というと、その場に泣き崩れた。

佐貫に戻り、お弓の方の居間に入った。すでに荼毘に付され、仮の仏壇には小さな遺壷が白布で包まれ、その脇には「法名智光院殿洪巌梵長大師」と記された位牌が置かれていた。乳母がお弓の方の一握りの黒髪と数珠を手渡し、ぽつり,ぽつりと涙ながらに語り始めた。30 日前頃に流行り病に罹り、床に伏しておられました。高熱が出て、「こわい、こわい」とうわごとを言い、その言い方

はまるで少女のようで、しばらく経つと目を開き、今度はにっこりとお笑いになりました。5 日後には熱も下がりましたが、食べ物は受け付けず,「殿様に知らせますよ」と言いますと、無理やり食べましたが、すぐに戻されました。10 日後には、ご自分から「食事がしたい」とおっしゃられ、お湯のようなお粥を少し食べ、日に日に顔色が良くなり、動けるようになりました。しかし、20 日後には、様子が一変され、再び高熱が出て、ぐったりとされていました。そんな中で、若い頃、殿様と過ごされた滝田城や佐貫城でのことを思い出されたようで、なつかしそうに、笑みをうかべながら途切れ、途切れに話され、今か今かと殿様の御帰りをお待ちしているかのようでした。そして、お弓の方様は、「幼い頃、殿様の『いつまでも姫を守ります』というお言葉に勇気づけられ、今日まで至り、殿様にはただただ感謝するばかり・・・」とおっしゃられた後、「眠る」とつぶやき、目を閉じられました。すぐに身動きもせず、いきも途絶えました。「お方様、お方様」と身を動かしながら叫んでも、再び目を開き、息を吹き返すことはありませんでした。実にお美しく、安らかなお顔でした。

この乳母が話すお弓の方の最後に、義弘は元気であった石堂寺時代、滝田城時代、そして佐貫城時代の姿を思い出し、涙ながらに聞き入っていた。
お弓の方の逝去 1561 年 3 月 21 日の深夜のことで、享年 28 歳の若さであった。

○波乱の生涯を送った青岳尼の菩提寺・興禅寺（安房）

青岳尼の菩提寺・興禅寺

青岳尼供養塔

○青岳尼の妹・旭山尼（第 17 代住持）の鎌倉東慶寺

東慶寺全景

以上